【別紙２】

平成３０年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　静岡市　】　学校名　静岡市立大河内小中学校

１実践テーマ	【　Ⅲ　】
２実施対象者	中学部全学年　８名　　保護者、学校評議員他　５名
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ①　教科名（　　　　　　　） ②行事名（　生き方講座　） ③　その他（　　　　　　　） （２）地域における活動 ①　イベント名（　　　　　　　） ②　その他　　（　　　　　　　）
４ 目　標 （ねらい）	・パラバドミントン選手の話を聞き、自分の生き方を考える機会とする。 ・スポーツを通してパラバドミントン選手と交流することで、障がいをもつ人々に対する理解を深め、共生社会の実現に向けて考えを深める。
５ 取組内容	○事前学習 ・関連書籍の購入、設置 生徒が自由に手に取ることができるように、校舎内のフリースペースにオリパラ関連書籍コーナー「アスリートの世界」コーナーを設置。 オリンピック、パラリンピックアスリートの生き方に焦点を当てた書籍を生徒に紹介した。 ・道徳「真海のチャレンジ」（『私たちの道徳』小学校５・６年）パラアスリートの谷真海さんが、スポーツを契機として障がいを乗り越え、目標をもって生きる様子を、資料を通して学んだ。 ○事業実践『生き方講座』 パラバドミントン選手の島田務選手を講師にお招きし、ご自身の生き方やパラバドミントンの紹介などを講話していただき、実際に車いすに乗りパラバドミントンを体験した。 講座プログラム 第Ⅰ部「パラバドミントン選手の生き方」 ・障がいを抱えるに至った経緯 ・障がいを「何かの縁」ととらえる肯定的な生き方 ・パラバドミントンとの出会いと競技者になろうと考えた理由。

	・出来ないことを出来るようにする、出来るようになる楽しみ。 挑戦することの価値。 ・車いすでの生活や、公共の場のバリアフリー環境。 第Ⅱ部「パラスポーツを体験してみよう」 ・島田選手のデモンストレーション ・競技用車いすの操作説明と車いす操作の体験 ・パラバドミントン競技の体験 ・質疑応答、自由発言 ○事後学習 ・「生き方講座」感想の記入 ・事後アンケートの実施
6 主な成果	・障がい者スポーツの体験や、アスリートとの交流を通して、オリンピックやパラリンピックに対する関心を高めることができた。「やってみたい」「見てみたい」だけでなく、「関連行事の手伝いをしたい」「オリパラの歴史や背景を知りたい」など、より積極的な関与をしていきたいと考える生徒が増えた。 ・島田選手とパラバドミントンを介して交流したことで、スポーツのもつ魅力や、スポーツを介して交流することの楽しさにを知り、スポーツに対する関心が高まった。 ・アスリートの生き方について学んだり、お話を伺ったりすることで、夢や目標をもつことや、あきらめず挑戦すること、色々な人と交流することの価値に気付き、自分の生き方について考えを深め、よりよく生きたいという意欲が高まった。
7 実践において 工夫した点 事業の特色	・本校唯一の部活動であるバドミントン部に、全校のほとんどの生徒が加入しているため、自分が取り組んでいるのと同じスポーツを専門的に取り組んでいる方を講師に招くことで、その技術の高さをより強く感じることができると考え、パラバドミントンの選手の派遣を依頼した。 ・地域の方々や保護者など、関係者が学校行事等に進んで協力してくださる土地柄なので、今回も学校評議員や保護者、地域の方に向けて案内を出した。
8 主な課題等	・生き方講座の日程が直前に決定したため、保護者や地域への案内の配付が遅れてしまった。地域や保護者等、より多くの方と生き方について考えを深め、価値を共有することでより深い学びとなると思われるため、早めの周知をしたかった。 ・事前、事後学習に十分な時間を取ることができなかった。各教科や領域で関連事項に関する指導や学習を重ねることで、よりよい学びの機会となるように感じた。
9 来年度以降の 実施予定	・本校で実施している「生き方講座」の目的は、様々な方の体験や考えに触れ、自分の視野を広げ、考えを深めることに重点を置いている。目標に向け真摯に生きるアスリートの姿勢や考え方に触れることは、子どもたちへの教育的効果も高いと考える。講師の確保ができれば実施していきたい。